

事業団だより

# やまなみ

2012  
**冬**  
Vol.6



写真提供：駒ヶ根観光協会 駒ヶ岳ロープウェイと南アルプス



いづみ 辰野  
長野県社会福祉事業団 理事長

辰野 恒雄

本年度、長野県社会福祉事業団は新たに「信濃学園（知的障害児施設）」「松本あさひ学園（情緒障害児短期治療施設）」「上伊那圏域障害者総合支援センター『さくらあ』（相談支援等）」の3事業所の運営を加え、まさに全県的に事業を展開しています。

そして、事業拡大に伴い、さらなる障害者福祉の向上と当法人の自立的経営基盤確立を目指して、新たに第二次長期構想を現在策定中です。

また、職員数も500人を超す大所帯となり、職員の資質向上に向けて、勤務評価制度や目標管理制度を導入した他、各種研修事業にも力を注いできました。

しかしながら、あるグループホームの世話人が利用者の小遣いを着服するという、あってはならない事件が発生し、全職員が一つの目標に向かって事業を進める中であって、本当に悲しい出来事で、悔しい思いをしています。

被害を被った方々へのお詫びをし、全員参加の研修会や法人役員会を通じて猛省し、預かりシステムとチェックシ

ステムを改め、再発防止を誓い合いました。そして「一人のミスや不正行為が組織全体に大きな影響を及ぼす」ということを改めて痛感させられました。

信州の冷え込みは厳しいものがありますが、過日終わったNHK連続テレビ小説「おひさま」やサッカー「松本山雅」のJ2入りなど、新しい話題が山盛りです。

新しい年にはこうした地域の盛り上がりと共に、私どもも力強く歩み続け、今まで以上に皆様に安心してサービスを利用いただけるよう襟を正して行きます。

今後とも何卒お力添えをいただきたく、よろしくお願いたします。

特集記事

駒ヶ根高原ふくしセミナー  
プレイベント開催 !!

連載記事

事業所リレートーク  
チャレンジ・アクション  
「高齢者支援検討プロジェクト本格始動!!」  
つれづれ福祉  
「障害のある人のアート活動」  
トピックス/プレゼント

# ふくしセミナー

プレイベント開催!!

当事業団では、平成24年度に当事者参加型「駒ヶ根高原ふくしセミナー」を計画しており、本年度は、そのプレイベントを駒ヶ根市で10月22日(土)～23日(日)に開催しました。

「学ぶ」「交わる」「楽しむ」をコンセプトに、長野県内では初となる知的障害のある人を対象とした「信州駒天駅伝大会」の他、「知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業中間報告会」「ワークショップ(まゆ玉クラフト体験、墨あそび)」を行い、2日間で166名の皆様にご参加いただきました。

## 学ぶ

講演会・研修会等

「駒ヶ根高原ふくしセミナー」

## コンセプト

# 交わる 楽しむ

交流会等

スポーツ・文化イベント等

### ①信州駒天(こまてん) 駅伝大会

会場：長野県西駒郷周辺

参加資格：知的障害のある方または養護学校に在籍する方

競技方法：1チーム4～8人(1人1.5km(1周)または750m(半周))

1

にしこま祭

### 同日開催「にしこま祭」

西駒郷の駒ヶ根・宮田両地区で行われていたお祭りを統合し今年で7回目を迎えました。自主生産品の販売や工芸作品の展示の他、ダンスや太鼓など、利用者の日頃の成果が発表されました。



10/22

### ①信州駒天駅伝大会

イベントに駅伝を採用した理由は「ルールが簡単で比較的参加しやすい」「タスキを繋ぐことで人と人の関わりが生まれる」の他、「駅伝は上伊那地域に根ざした競技である」こともポイントで、本大会の準備・運営にあたっては地元「駒ヶ根市体育協会陸上部」「駒ヶ根中沢ランニングクラブ」の皆様にご多大なるご協力をいただきました。

当日は大粒の雨が降ったり止んだり不安定な天候で、開催自体も危ぶまれましたが、参加者からの後押しもあり「雨天決行」を判断しました。

皆の願いが通じたのか、開会式が始まる10時30分ころから小雨になり、準備体操をするころにはうつつすらと太陽の光もさし始めました。

競技はトラブルなくスムーズに進行し、計9チーム44名が西駒郷周辺の特設コースでタスキを繋ぎました。(競技結果は次頁右下表) 表彰式終了後は会場のあちこちで握手や肩をたたき合う姿が見られ、皆が一つになれた素晴らしい大会となりました。





23日のイベント「GH調査・検証事業中間報告会」及び2つの「ワークショップ」は同日開催の「上伊那圏域福祉フォーラム」の分科会として開催しました。

## ② GH調査・検証事業中間報告会

本年度実施している同事業の中間報告会として、当事業団が運営する40ホーム195人の入居者を対象とした聞き取り調査の実施状況について、長野大学高木講師が報告した後、各シンポジストがそれぞれの立場で討論しました。

この中で「買い物外出等、社会資源活用の重要性」が再認識され、今後、社会資源の実態及び活用状況について調査を進めることとしました。

## 【中間報告 講演】

高木潤野氏

(長野大学講師)

## 【シンポジウム】

福岡寿氏 (高水福祉会常務理事)

野村健一郎氏 (長野大学教授)

堀内豊彦氏 (駒ヶ根市民生児童委員)

原啓明氏 (県障害者支援課自立支援係長)

遠藤清美氏 (ほっとワークスグループ)

プホーム・ケアホームセンター主任支援員)

## ③ ワークショップ

「まゆ玉クラフト体験」は伊那谷の養蚕・製糸産業の歴史を伝える「駒ヶ根シルクミュージアム」にご協力いただき、まゆ玉を使った「ペーパーウエイ」の制作体験を行いました。参加者には「自分の作った作品を持って帰れる」ということも大きな楽しみに繋がったようです。

「墨あそび」は県内外でアート活動の普及を進める「関孝之氏」を講師に、参加者それぞれが自分の思いを自由な書体で表現しました。参加者自身、どんな作品に仕上がるか最後まで分からず、その意外性を楽しみました。※つれづれ福祉「障害のある人のアート活動」参照

## ② 知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業中間報告会 (GH調査・検証事業中間報告会)

(日本財団助成事業 長野県社会福祉事業団・長野大学共同研究)

## ③ ワークショップ

「まゆ玉クラフト体験」

(講師：駒ヶ根シルクミュージアム)

「墨あそび」(講師：関 孝之氏)

上伊那圏域  
福祉フォーラム

2 3

10  
23

## 大会結果



### 第1回 信州駒天駅伝大会 結果

#### ＜団体＞

1位	ビーバース	26分57秒
2位	伊那養護学校Bチーム	27分24秒
3位	はばたけ！夢のつばさ	28分35秒

#### ＜個人 (1.5kmの部)＞

1位	登内 秀明 (ビーバース)	5分59秒
2位	岡部 和希 (はばたけ！夢のつばさ)	6分28秒
3位	保科 怜士 (伊那養護学校Aチーム)	6分32秒

#### ＜個人 (750mの部)＞

1位	竹腰 健太 (伊那養護学校Aチーム)	2分41秒
2位	西村 翔太 (伊那養護学校1年)	2分52秒
3位	田中 祐輔 (伊那養護学校Bチーム)	3分8秒

「ビーバース」…ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター(伊那市)  
「はばたけ！夢のつばさ」…夢のつばさ(阿智村)

### 同日開催「上伊那圏域福祉フォーラム」

上伊那圏域地域自立支援協議会が中心となって、平成20年度から毎年開催しています。今年度は「メンタルライフサポート」「発達障がい支援」等の4分科会を開き、計200人が参加しました。



## なぜ、「駒ヶ根」でセミナーを開催するのか？ ～その意味と意義～

長野県では、平成16年3月の「西駒郷基本構想」策定を機に、全県的に入所施設利用者の地域生活移行が進められています。本セミナーは、この取組み発祥の地となる「長野県西駒郷」を有する駒ヶ根から「地域生活移行」はもとより「信州発—『障害者の地域での暮らし』」を県内をはじめ全国に発信し、それぞれの地域・風土の中で、「積極的な暮らし創り」に寄与することを目指します。

## イベントに参加した皆様からのメッセージ



信州駒天駅伝大会 競技審判長 **林 正俊 様**  
(駒ヶ根市中沢ランニングクラブ 監督)

開催前は大粒の雨が降っていましたが、選手たちの「(雨でも)絶対に駅伝をやるんだ!」という強い気持ちを感じ、運営スタッフとして、その一途な気持ちに感動しました。知的障害のある人の大会は初めてでしたが、選手も運営スタッフもそれぞれが力を出し合い、本当に良い大会になったと思います。本大会が地域に根付くよう、今後も引き続き協力していきます。

伊那養護学校Aチーム責任者 **小松 共一 様**  
(長野県伊那養護学校 教諭)

本校の中学部・高等部の生徒は毎朝マラソンをしています。今大会の「タスキをつなぐ」ということが、クラスの仲間の和を高めるのに非常に良い機会となり、表彰式では涙ぐむ姿も見られました。

参加した生徒は毎朝のマラソンに対して意欲的になり、「来年も出たい!」という声も早くも上がっています。雨が降る中でしたが開催して下さって本当に良かったです。



分科会4「まゆ玉クラフト体験」講師 **北原きみ枝 様**  
(駒ヶ根シルクミュージアム体験工房スタッフ (桑の会の会))



「まゆ玉」を使った「ペーパーウエイト」「おきあがりこぼし」作りの担当をしました。障害のある人のお手伝いということで「大変かな?」と思っていたけれど、皆さん想像以上にできる人ばかりで、難しそうな人でもちょっと手を添えると自分でできていました。参加した皆さんに楽しんで頂けたようで、スタッフ自身も楽しむことができました。皆さん、駒ヶ根シルクミュージアムにも是非お越しください。

分科会4「まゆ玉クラフト体験」「墨あそび」参加者 **奥永 里美 様**  
(長野県社会福祉事業団評議員 元西駒郷利用者)

「まゆ玉クラフト体験」まゆを切るところ、材料を切るところが難しかったけど、隣にいた人が親切に教えてくれた。口を大きく開いたかわいいカエルができた。時間が余ったのもう一つくらい作りたかった。

「墨あそび」私は字を書くのが苦手なんだけど、習字の先生がよ〜く教えてくれたから、字を書くのが嫌じゃなくて楽しかった。「かわいいめだか」が書けて良かった。



**駒ヶ根高原ふくしセミナー 開催予告**

開催日…平成24年10月20日(土)〜21日(日)

場 所…宮田村民会館(宮田村) および西駒郷周辺(駒ヶ根市)

内 容…駅伝・シンポジウム等、当事者も従事者も共に「学び」「交わり」「楽しめる」内容を企画



しかしながら、事業団単体ではスタッフ体制もノウハウも不十分であるため、今年度はプレイベントを「にこま祭」「上伊那圏域福祉フォーラム」と同日開催する中で、ノウハウの習得やスタッフ数・業務量の削減を図るとともに、新たなネットワークの構築を目指しました。結果、次年度にタスキを繋ぐ意義あるプレイベントになったと感じています。

来年度以降は、本企画にご賛同いただいた法人・団体等の皆様と実行委員会を組織し、今までにないセミナーを開催したいと考えています。是非、一緒に信州を盛り上げていきましょう。

長野県の地域生活移行の取組みは、これまで数多くのセミナー等で報告されてきましたが、当事業団としては、この取組みを風化させることなく、継続して発信し続ける責務があると感じており、平成20年に「高原セミナー準備プロジェクト」を立ち上げ、平成24年度に当事者参加型のセミナーを開催することとしました。

高原セミナー準備プロジェクト委員長  
(西駒郷宮田支援事業部長)  
**矢花 尚利**

駒ヶ根高原ふくしセミナー  
開催に向けて

## ① 信濃学園

～㊀ぜんに囲まれ ㊁かまと共に ㊂びのびと～

信濃学園では、知的発達に障害のある利用者さんが施設生活を通して心身ともに豊かな成長を遂げられるように、家庭や学校を始めとする関係機関と連携しながら一人ひとりに適した支援を実践しています。

また、多様化したニーズに対応すべく、在宅で生活する児童のための療育支援サービスとして「こまくさ教室」、学園にて宿泊を伴う「短期入所事業」、および日帰り利用の「日中一時支援事業」を展開しています。

学園を利用する皆さんが、美しい自然に恵まれたここ松本波田の地で、個性豊かな仲間たちとのびのびとした生活が送れるよう、また保護者や地域の方々に応援していただける信濃学園であり続けるよう、職員一丸となって支援してまいります。  
(河原崎)



## ③ 上伊那圏域障害者総合支援センター きらりあ

～地域でよりよく過ごしていただくために～



長野県では県内10圏域ごとに身体、知的、精神の3障害の相談をワンストップで対応する総合支援センターを設置しており、当センターはその一つとして、本年度より当事業団が受託し運営を開始しました。

上伊那圏域8市町村に在住の障害児・者の方を対象に、様々な困りごとの相談から福祉サービス利用のアドバイス、そして就職や職場定着に向けた支援まで、地域で暮らす皆様が安心して生活できるように、各関係機関と連携しながら活動しています。

「きらりあ」の名称は輝く未来、瞳がきらきら輝く人や場所（エリア）を意味しています。皆様に愛されるようなセンターになるように日々努めてまいります。（伊藤）



## ② 松本あさひ学園

～子どもたちがオアシスと感じられる  
施設をめざして～



当園は、心理的な原因で家庭や学校で不適応を起こしている児童が、入・通所し治療する県下唯一の情緒障害児短期治療施設です。

前身の「諏訪湖健康学園」が、4月から松本市に移転・新築され、事業団が指定管理者となりました。

施設全体が治療の場で全ての活動が治療であるという「総合環境療法」の考え方を基本に、生活支援、心理治療、学校教育、医療そして地域、家族との連携を治療の柱としています。

7月には、当園のある安原地区の夏祭りの出店などで楽しむ一方、和太鼓を披露し喜んでいただきました。これからも地域との交流を深めてまいります。

子どもたちが、より自分らしくみんなと共に生きることができるよう、支援したいと思っています。（岡村）



## 高齢者支援検討プロジェクト本格始動!!

当事業団利用者の年齢構成は、約30年前の状況から様変わりしており（下グラフ参照）、利用者の高齢化問題は避けては通れない課題となっています。

また高齢化に伴い移動介助等、身辺介護を要する利用者が増えるなど、職員に求められる支援内容も少しずつ変化してきました。

そこで、当事業団では平成21年度に「高齢者支援検討プロジェクト」を立ち上げ、事業団利用者の高齢化を中長期的に調査し、高齢者支援の方策を探るとともに、将来の事業展開も含めた検討を開始しました。

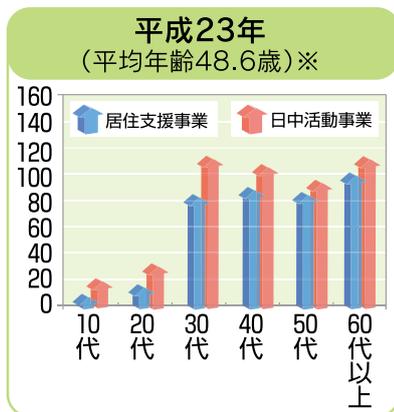
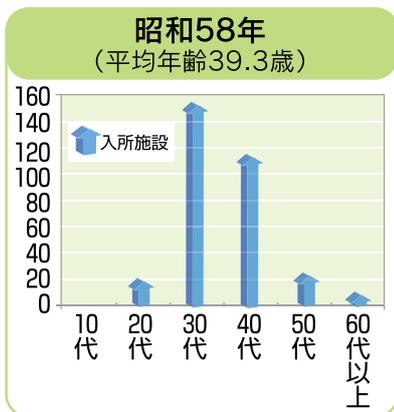
そして本年度、同プロジェクトで作成した「退行調査用紙」を使用し、「第1回 知的障害者等退行実態調査」を全事業所の利用者を対象に実施しました。



居住支援事業所の支援風景



全職員を対象とした身辺介護技術研修



※信濃学園、松本あさひ学園の利用者は除く

### 委員長より一言



高齢者支援検討  
プロジェクト委員長

**降旗 正章**

(ほっとワークスGH・CHセンター所長)

約30年前は、一部の入所施設だけの問題であった「障害者の高齢化」が医療サービス等の充実により、どこの施設でも話題となる時代になりました。近年では研究の成果も蓄積されつつありますが、どのような疾患の場合にはどのような支援が有効か、など明らかになっておらず、トータルのデータはいまだ不足している状態にあります。そこで、この調査は、当事業団の目先の課題だけでなく、障害者の高齢化に関する研究にも一石を投ずることができればと考えています。

そのためには、調査方法の改善とともにある程度の期間調査を継続することが必要です。何年か先には、具体的な支援に有効な資料を提供し、情報発信できるようになればうれしく思います。

- ①ICF（国際生活機能分類）の心身機能低下13項目、活動性低下12項目を活用
- ②個人因子、環境因子の項目は、記入者がフリー記載できる欄を設定
- ③看護師、支援員それぞれがチェックできるよう、同様の項目でも欄を2つ設定

今回の調査に使用した「退行調査用紙」は、プロジェクト委員（6名）が約2年にわたり下記文献等を参考に検討を重ね作成しました。なお、作成にあたり重視した点は次のとおりです。

#### 〔参考文献〕

「知的障害児・者の機能退行の要因分析と予防体系開発に関する研究（2006）」  
国立精神・神経センター精神保健研究所  
「退行を示した青年期・成人期知的障害者に対する地域生活支援と社会参加の促進に関する研究（2005）」  
東京学芸大学 教育実践研究支援センター

退行調査用紙(各事業所保存)

退行調査用紙(見本)

姓 名	年 月 日	年 月 日	総合評価
性 別	男・女		障害程度
転居履歴	年 月 日		調査日
			医師
			支援員
障害の種類			
知的障害	てんかん	ダウン症	
自閉症	精神障害	身体障害	

1 心身機能低下	中央値	項目	評価点	医師面		小項目	
				(シ点)	(レ点)	変位面	(レ点)
1	目	視力低下			視力低下		
		自閉症・精神障害			聴覚		
		聴覚			見えにくい		
2	耳	聴覚			聞こえにくい		
		聴覚			聞こえにくい		
3	歯	歯槽膿漏					
		歯槽膿漏			歯槽膿漏		
4	歯	入れ歯・欠損			入れ歯・欠損		
		入れ歯・欠損			入れ歯・欠損		

「喜怒哀楽」  
小松三剛（西駒郷利用者）



「ゆうやけこやけ」  
辰野町地域活動支援センター

障害のある人の

# アート活動

障害のある人のアート活動の取組みは、本人の生きがい作りや自己実現に繋がり、自立や社会参加の促進に寄与するとして、多くの事業所で取り入れられており、当事業団の各事業所においても、それぞれが特徴的な創作的活動に取り組んでいます。

この度、平成23年9月24日（土）、25日（日）に開催された『第14回長野県障害者文化芸術祭〜夢・アートフェスタまつもと〜』の作品展において、県内の障害のある人が制作した482点の作品の中から、西駒郷、辰野町地域活動支援センター利用者の作品が「絵画」「手芸」の各部門において最優秀賞を受賞しました。

## 辰野町地域活動支援センターの取組み

当センターではボランティアによる月1回の陶芸教室や書道・絵画等の創作的活動を行っており、隣接する地域福祉センターでは、作品を常設展示・販売するなどして地域との交流を深めています。

今回の受賞作品は利用者11人が一丸となって、小さな色紙を丸めて粒状にしたものを根気よく貼り合わせて制作しました。

受賞結果は新聞各社に取り上げられたほか、辰野町町長への表敬訪問も行い、利用者の励みとなりました。



## 西駒郷の取組み

西駒郷では日中活動のメニューに専科活動（音楽、美術、軽スポーツ、調理体験等）を取り入れ、利用者個々のニーズや特性に合わせたサービスの提供を行っています。

美術の専科活動には毎日10名前後が参加し、専科講師が絵・書・草木染等、様々な取組みの支援を行っています。

作品展に出品する場合は、それぞれが目標を持って集中できるような環境作りを心がけており、今回の受賞作品は約8ヶ月間（！）をかけて制作されたものです。



「この人」  
に  
聞く!



特定非営利活動法人  
ながのアートミューティング

代表 関 孝之

障がいのある人たちの「表現」は残念ながらまだまだ見過ごされていることが多い。言葉で自分を表現することが苦手な人たちはなおさらである…。

「ながのアートミューティング」には障がいのある人たちのアートの世界に虜になっってしまった仲間たちが集う。そして「アートする」ことをお手伝いしながら、この現代社会で窮屈に生きる人たちにこれらのアートを届けていきたいと願っている。



- ✔ こんなとき私たちがお手伝いします
  - ✔ うちでもアート（音楽、絵画、墨あそび、その他）を始めたい
  - ✔ そろそろ展示会をしてみたい
  - ✔ この作品なにかになりそーなんだけど
  - ✔ 次の展開をどーしたらいいだろう？
- こんなこともしていきます
- ✔ 作品の発掘
  - ✔ 発表の場づくり
  - ✔ ネットワークづくり
  - ✔ サポーターの育成

問い合わせ先 代表 関 孝之  
mail: csxgf462@yahoo.co.jp まい

## 障害者就労支援センター 「小春日和」(仮称) 建設工事始まる!

当事業団初となる飲食店営業を行う事業所「障害者就労支援センター小春日和」を平成24年春、長野市豊野町にオープンします。

「小春日和」は就労移行支援事業所として、企業での清掃作業や商品管理をはじめ、釜戸で炊き上げるご飯を使った食事提供や、豊野町の特産品であるりんごを使ったアップルパイの製造・販売などを通して、就職に必要な技術・マナーの習得を目指します。

なお、名称の「小春日和」は土地を提供してくださった「☺️時計店」様から2文字をいただき、あたたかな事業所づくりを目指して命名しました。

ご利用のご相談や詳しい内容につきましては、開設準備窓口の八雲日和 (026-228-5220) 善哉までお気軽にお問い合わせください。



## 新設2事業所で 学園祭を開催しました!!

松本あさひ学園では10月に「ほほえみ祭」、信濃学園では11月に「のびる祭」を開催しました。「ほほえみ祭」では、児童・職員共演の太鼓演奏を披露し、また模擬店を通じて地域の方との交流も深められました。



また、「のびる祭」では、恒例のステーション発表の他、事業団が運営する他事業所も応援に駆け付け、西駒郷のどら焼きや、松本ひよこのパン、辰野町就労支援センターのラーメン等が販売され、今までにない活気ある祭りとなりました。

## 福祉・介護の仕事に関心をお持ちの皆さん! 介護福祉士・社会福祉士資格取得のための 学費を貸与します!

### 《貸与制度の主な内容》

貸与額：1月当たり5万円上限(入学準備金、就職準備金の加算あり)

対象者：平成24年4月1日に養成施設等へ入学する者

受付期間：第一期 平成24年2月1日から29日

第二期 平成24年4月2日から20日

その他：県内で5年間、介護又は相談援助の業務に従事した場合、返還が免除されます。

制度の詳細については当事業団HPにてご確認ください。

## ほっとワークス・みのわ 就労継続支援B型事業所 支援員 (パン作り班 担当) 青木 翼からのメッセージ

当所では充実したパンの品揃えを実現するため、粉から練り上げたスクラッチ製法の生地と冷凍生地の2種類を使用し、菓子パンや惣菜パンなどを製造・販売しています。一から作るパンは、素材そのものの香りが漂い、中はしっとりふわふわ。リピーターも多くいらっしゃいます。また、ビーズ手芸品の制作・販売も行っています。是非一度、ほっとワークス・みのわにお越しください。



## プレゼント

事業団より「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等については、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せ下さい。

3月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、昨年10月で開所6年を経過した「ほっとワークス・みのわ」の「食パン」「ラスク」「ビーズ手芸品」のセットを5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

(プレゼントの発送は4月頃を予定しています)

※個人情報商品の発送の目的にのみ利用させていただきます。

信州に今年も冬将軍がやってきました。

3.11東日本大震災、3.12長野県北部地震。双方雪深い地域です。「この冬もがんばって乗り切ってほしい」とつくづく思います。

さて、巻頭言で取り上げましたように、昨年世話人によるホーム利用者の小遣い着服事件が発生しましたが、本件は警察等と相談段階にあり本号で記事にすることは控えました。

編集担当としては、「やまなみ」は「良い事も悪い事も情報公開する」ことを再認識し発行していきたいと思えます。今年、明るい、夢のある記事で埋めたいものです。(中村)

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。

